

- 近年、食品安全確保の一つとして国がGAPの取り組みを求める動きが加速化している。
- 近年、新規就農者に対する各種施策が展開されたことから、新規就農者は増加傾向にある。
- 「次世代リーダーの育成」を目的に自身の農業生産・管理手法を形成中である農業青年を対象に、新たな手法でGAP実践支援に取り組んだところ、農家の反応もよく、「自発的な改善意欲」とともに確かな改善が見られた。

具体的な成果

1 GAP規範への**気づき**

各作業時期に合わせて、GAP規範を講習するとともに意見交換を重ねたことで、GAPがより具体的なものとして認識できた。



写真:GAP講習会の様子(講習・意見交換)

2 **自発的な改善意欲**の醸成

10月にGAP指導員育成を兼ねて、モデル農家の育成支援を目的に農場評価を実施。リスク評価結果に基づく改善ポイントを項目毎に説明し、改善可能、不可能な項目のすり合わせを行い、具体的な改善目標を設定することで、農場のリスク評価を行ったモデル農家が自ら改善に取り組み、再度農場評価を行った結果、短期間(約4ヶ月)で改善が見られた。

評価 (項目数)	農場評価① H29.10.23	目標設定 H29.10.24	農場評価② H30.2.15
評価0	24	72	58
評価1	7	2	16
評価2	25	6	9
評価3	20	5	2
評価4	9	0	0
総合点数	240	860	805
総合評価		☆☆	☆☆☆

表1:各評価項目数の推移

普及指導員の活動

平成29年度

■農業青年クラブ(組織)に対し、各管理時期に合わせた「GAP規範」の講習・意見交換(1回の講習のボリュームを少なくし、できるだけ参加した農家の意見を聞くように心がけた)。

実施月	栽培時期	講習内容	項目数
8月	栽培前	ほ場全体に関すること	13
9月	栽培初期	農薬関係	6
10月	栽培中期	資材管理	5
11月	栽培後期	衛生管理	7
12月		新設項目補足	3

表2:講習会内容

■対象となる組織の中から、GAP実践に意欲を示した農業青年に対してリスク評価を実施。評価結果については、単なる結果伝達にならぬよう「評価ポイント」や「改善ポイント」を具体的に示すことでより認識できるよう心がけた。

普及指導員だからできたこと

■農業青年担当が組織との連絡役、GAP担当が講習資料の作成、野菜担当が栽培に関する質問への対応と所内で連携しながら、**有機的**に取り組んだ。

■GAP講習を通して、対象農家が圃場の土壌物理性に興味を持ったため、土壌の研究経験が豊富な職員も加わるなど**指導者の研修**も兼ねて実施した。

活動期間：平成29年度～（継続中）

1. 取組の背景

近年、GAPの取り組みを重点化する情勢を受け、南部農業改良普及センターではこれまで地域へのGAP実践の波及効果を狙って「意欲があり、中核となる農業者」を対象に

① GAP概論（概念）の講習・説明

② 農場評価、評価結果伝達、改善指導

を実施してきた。この方法だと、農家の「気づき」を一定程度引き出せるが、農家の経験則もあり「改善意欲」を上手く引き出すことができなかった。

また、近年、新規就農者が増加傾向にあることを踏まえ、農業青年へもアプローチを行ってきたが、「GAP概論」は内容的にボリュームが多いことから、経営が安定していない若手にとって「生産量・出荷品質の向上」が優先であるとのことで敬遠されていた。

しかし、GAP認証が本格化する前に段階的にGAP実践に取り組み、各生産者の農業管理を底上げする必要があった。

2. 活動内容（詳細）

今年度は、「次世代の地域リーダー育成」を目的に、GAP実践支援手法を南城市農業青年クラブに対して組織活動（GAP取組項目に関する講習）と同クラブからモデル農家を選定し、現状のリスク評価（農場評価）とその改善に向けた取組を通して、リスク回避に向けた「気づき」と「改善への意欲喚起」を促した。

なお、農業青年クラブの選定にあたっては、

① クラブ員の多くが野菜栽培農家であること

② 特別栽培やエコファーマー等に取り組んでいるクラブ員が多いこと

を条件に選定し、モデル農家の選定にあたっては、組織へのGAP講習を通してGAP実践に意欲を示した農家を選定した。

【組織支援】

概論に関する講習は行わず、秋からの栽培開始に向けて、GAP規範を各月の作業内容に合わせた項目ごとに8月から5回に分けた講習を実施。講習時には、各項目についてクラブ員と意見交換しながら、より現実的な取組として認識できるよう工夫した（講習は同クラブの定例会に実施）。（表1）

【モデル農家支援】

- ・ 現状把握：GAP指導員育成を兼ねて、農場評価を実施。（表2）
- ・ 結果通知：チェック項目毎に、リスク評価結果の理由を詳細に説明。
- ・ 改善目標：リスク評価結果に基づく改善ポイントを項目ごとに説明し、どこまで改善できるか具体的な改善目標（1年後）を設定。（表3）
- ・ 再評価：モデル農家自らが一定程度の改善を行った後、モデル農家からの申告により再評価を実施。（表4）

表1：GAP講習会内容と項目別の理解度・実施度

講習時期	GAP講習項目	理解度 (%)				実施度 (%)			
		理解できた	理解できなかった	もっと知りたい	未記入	すでにやっている	やりたくない・できない	今後やりたい	未記入
8月 【栽培前】	①畑の位置、面積	86	0	14	0	57	0	43	0
	②畑やその周りからの汚染防止	71	0	29	0	29	0	71	0
	③無登録、期限切れ農薬	86	0	14	0	100	0	0	0
	④堆肥に関すること	86	0	14	0	29	0	71	0
	⑤肥料に関すること	86	0	14	0	14	0	86	0
	⑥肥料、農薬の使用履歴	86	0	14	0	43	0	57	0
	⑦機械、器具の取り扱い	86	0	14	0	14	0	86	0
	⑧収穫物の調整施設の衛生	86	0	14	0	14	0	86	0
	⑨廃棄物の処理	88	0	12	0	50	0	50	0
	⑩畑からの土壌流出	88	0	12	0	38	0	62	0
	⑪使用する水質	75	0	25	0	25	0	75	0
	⑫健康診断、保険加入	88	0	12	0	38	0	62	0
	⑬手洗い、トイレ	88	0	12	0	25	0	75	0
9月 【栽培初期】	①農薬と他の防除手段を組み合わせた防除	100	0	0	0	17	0	83	0
	②安全作業のための服装や保護具の着用	100	0	0	0	17	0	83	0
	③適時適切な防除の実施	100	0	0	0	17	0	83	0
	④防除器具等の十分な点検と洗浄	100	0	0	0	33	0	67	0
	⑤農薬の使用残の発生防止	100	0	0	0	50	0	50	0
	⑥農薬散布時における周辺作物・住民等への影響の回避	100	0	0	0	17	0	83	0
10月 【栽培中期】	①危険な農作業等の把握及び改善	100	0	0	0	0	0	100	0
	②農薬・燃料の適切な管理	100	0	0	0	0	20	80	0
	③肥料の管理	100	0	0	0	40	0	60	0
	④生産資材の使用履歴等の記録と保存	100	0	0	0	20	0	80	0
	⑤作物残さ、廃棄物排出の低減	100	0	0	0	20	0	80	0
11月 【栽培後期】	①農産物の取引等に関する記録の作成・保存	75	0	25	0	25	0	50	25
	②作業者の衛生管理と健康管理の徹底	75	0	25	0	0	0	75	25
	③収穫等に使用する器具類の衛生的な管理	75	0	25	0	0	0	75	25
	④収穫・調整・選別時の汚染や異物混入防止	100	0	0	0	0	0	75	25
	⑤安全で清潔な包装・出荷資材の使用と青果物の温度管理	100	0	0	0	0	0	75	25
	⑥栽培・調整・出荷施設の衛生管理	100	0	0	0	25	0	50	25
	⑦衛生管理内容の周知と記録の保管	100	0	0	0	0	0	75	25
12月 【栽培後期】	①フードディフェンスへの対策	100	0	0	0	17	0	83	0
	②農場内でのエネルギー使用量の節	100	0	0	0	0	0	100	0
	③より快適な環境の整備	100	0	0	0	34	0	66	0

表2：H29.10.3 農場評価結果

管理分類	評価	評価+	該当外(-)	評価0	評価1	評価2	評価3	評価4	管理分類小計
1. 農場管理システムの妥当性	5	0	0	-5	-10	-15	-20		-115
2. 土壌と作物養分管理	3	7	1	4	1	0			-60
3. 作物保護と農薬の使用	4	4	3	5	0	2			-105
4. 施設・資材と廃棄物の管理	2	3	1	5	6	4			-225
5. 農産物の安全性と食品衛生	4	3	0	3	7	3			-195
6. 労働安全と福祉の管理	2	5	1	3	2	0			-65
7. 環境保全と生物多様性の保護	1	2	7	25	20	9			5
評価レベルごとの指摘項目数	1	20	26	7	25	20	9		-760
管理分類の合計点数									-760
総合点数 (=1000点-管理分類の合計点数)									240
総合評価									
総評および推奨				総合点数		総合評価判定			
土壌分析を毎年受け、その結果に基づき、施肥を実践されるなど土壌管理については、概ね良好に管理されていると				1000点～		右の件に該当していない 評価3が5項目以上あり、評価4がない			
思います。また、よりよい土づくりを目指して各種資材を試行錯誤されていますが、生産量などの記録を残すことでそれらの検証が可能になります。肥料・農薬の使用履歴と併せて管理記録として残すことを勧めます。				900～995点		☆☆☆☆ ☆☆☆			
農薬や肥料の管理について、直ちに適正な管理法に改めて下さい。また、農薬の計量については、「正確に行う」が原則です				800～895点		☆☆☆ ☆☆☆			
ので、計量方法も適正に行ってください。農薬散布に使用する資材は、毎使用後の徹底した洗浄が原則です。				700～795点		☆☆☆ ☆☆☆			
「農産物は食品である」という大前提に立ち寄り、栽培期間中から出荷するまでの全工程での衛生的な管理を求めます。				600～695点		☆☆ ☆☆☆			
今後もよい農業に取り組まれることを期待します。詳細な内容については、担当者に確認・ご相談ください。				595点以下					

【Before】農薬保管状況



農薬保管状況
・分類なし
・施錠なし

【After】農薬保管庫設置



・施錠できる保管庫設置
・液剤、粉剤、展着剤等に分類、トレーに保管
・燃料保管あり、消火器設置

表3：H29.10.24 農場評価結果に基づき、設定した目標

管理分類	評価	評価+	該当外(-)	評価0	評価1	評価2	評価3	評価4	管理分類小計
1. 農場管理システムの妥当性	5	0	0	-5	-10	-15	-20		-25
2. 土壌と作物養分管理	3	13	0	0	0	0	0	0	0
3. 作物保護と農薬の使用	4	13	0	1	0	0	0	0	-10
4. 施設・資材と廃棄物の管理	2	15	2	2	2	0	0	0	-30
5. 農産物の安全性と食品衛生	4	10	0	2	4	0	0	0	-80
6. 労働安全と福祉の管理	2	11	0	0	0	0	0	0	0
7. 環境保全と生物多様性の保護	1	2	2	6	5	0			5
評価レベルごとの指摘項目数	1	20	74	2	6	5	0		-140
管理分類の合計点数									-140
総合点数 (=1000点-管理分類の合計点数)									860
総合評価									
総評および推奨				総合点数		総合評価判定			
土壌分析を毎年受け、その結果に基づき、施肥を実践されるなど土壌管理については、概ね良好に管理されていると				1000点～		右の件に該当していない 評価3が5項目以上あり、評価4がない			
思います。また、よりよい土づくりを目指して各種資材を試行錯誤されていますが、生産量などの記録を残すことでそれらの検証が可能になります。肥料・農薬の使用履歴と併せて管理記録として残すことを勧めます。				900～995点		☆☆☆☆ ☆☆☆			
農薬や肥料の管理について、直ちに適正な管理法に改めて下さい。また、農薬の計量については、「正確に行う」が原則です				800～895点		☆☆☆ ☆☆☆			
ので、計量方法も適正に行ってください。農薬散布に使用する資材は、毎使用後の徹底した洗浄が原則です。				700～795点		☆☆☆ ☆☆☆			
「農産物は食品である」という大前提に立ち寄り、栽培期間中から出荷するまでの全工程での衛生的な管理を求めます。				600～695点		☆☆ ☆☆☆			
今後もよい農業に取り組まれることを期待します。詳細な内容については、担当者に確認・ご相談ください。				595点以下					

表4：一定程度、改善した後の再評価結果

管理分類	評価 点数	評価+	該当外(-)	評価0	評価1	評価2	評価3	評価4	管理分類小計
1. 農場管理システムの妥当性		5	0	0	-5	-10	-15	-20	-30
2. 土壌と作物残管理			3	10	2	1	0	0	-20
3. 作物保護と農業の管理			4	11	1	2	0	0	-25
4. 施設・設備と廃棄物の管理			2	13	5	1	0	0	-35
5. 農産物の安全性と食品衛生			4	11	3	1	1	0	-40
6. 労働安全と福祉の管理			2	6	1	3	1	0	-50
7. 環境保全と生物多様性の保護	1			2					5
評価レベルごとの指摘項目数	1		20	60	16	9	2	0	
管理分類の合計点数									-195
総合点数 (=1000点-管理分類の合計点数)									805
総合評価									

総評および推奨	総合点数	総合評価判定		
10月に個人で改善できる項目、できない項目についてすり合わせを行い、改善ポイントに基づいて改善を行った結果、		右の件に該当していない	評価3が3項目以上あり、評価4がない	評価4が1項目以上ある
評価3の出荷調整場の蛍光灯を修繕、事故やケガに備えた応急処置訓練を青年クラブで受講する以外はほとんどが	1000点～	☆☆☆☆	☆☆☆☆	
改善できていました。ただ、あともう少し改善が必要な項目に関しては、評価1～2の評価になっています。ほんの少しの	900～995点	☆☆☆☆	☆☆☆☆	
工夫や改善で評価0に近づきますので、今回の評価アドバイスを基に今後も頑張ります。目標の860点（総合評価	800～895点	☆☆☆☆	☆☆☆☆	
☆☆）にはあともう少しですが、評価3が2項目に減った為、総合評価が☆☆☆になり、目標よりもレベルアップしました。	700～795点	☆☆☆☆	☆☆☆☆	
三つ星農家として自信を持って、これからも継続して良い農場管理に努めて下さい。	600～695点	☆☆☆☆	☆☆☆☆	
	595点以下	☆☆☆☆	☆☆☆☆	



【Before】

・むきだしだった出荷用コンテナ



【After】

・カバーをかけて保管



【Before】

・むきだしだった資材置き場



【After】

・不要になったタイベックで資材置き場にカバーをかけた

3. 具体的な成果（詳細）

これまでのGAP実践支援では、「GAP概論」の周知と「農場評価結果に基づく改善支援」に取り組んできたが、「自発的な改善意欲の醸成」には至っていなかった。今年度、新たな支援手法で支援した結果、下記の感想・農家の変化が得られた。

【組織支援】

GAP規範講習後に各項目について、事例等も交えた意見交換を実施した結果、より具体的なものとして認識され、「これならできるが、これは厳しい」等の意見が聞かれ、現実的な取組として必要性とともに認識させることができた。

【モデル農家支援】

農場評価の各項目について、より具体的に「改善ポイント」を示しながら、改善の可否について意見交換を行ったところ、「気づき」とともに「自発的な改善意欲」が聞かれた（改善目標を設定）。評価を行った作物の終了後に再評価の申し出があり、実施したところ、目標にはわずかに届かなかったがGAP実践（改善）に取り組んだ「達成感」が得られる評価結果となった。

4. 農家等からの評価・コメント

【南城市農業青年クラブ員】

GAP規範講習時の意見交換の中で、『より現実的・具体的な「管理手法」として必要性も併せて、認識することができたが、まずは、生産が安定してから...。』との意見が聞かれた。

【モデル農家（T氏）】

リスク評価結果に対する各項目の「改善ポイント」の講習とともに、意見交換したところ『これまで両親や地域の先輩農家の背中を見ながら、「追いつけ、追い越せ」の想いで

農業に取り組んできて自分なりに自負があったが、今回、実際に農場評価を受けてみて「農産物＝食品」という意識が低かったことに気付かされた。具体的な改善ポイントが示されたことで、現実的な改善目標が立てられた。各項目の改善は、それほど困難ではないと感じたので、1年後を目標に取り組めるところから取り組みたい。』との意見が聞かれた。

再評価の際には、『栽培しながらの改善は正直大変だった。再評価の結果、予想以上の評価（☆☆☆）が得られたので苦勞が報われた。残りの改善点についてもできるところから取り組みたい。』との意欲が聞かれた。

また、『取り組みの苦勞などを共有できる人が増えてほしい。』とクラブ内での波及も希望していた。

5. 普及指導員のコメント（所属・役職・氏名を記入）

次世代を担う南城市農業青年クラブが今年度より新たにGAP実践に加わったことを踏まえて、「もし、自分が農家だったら・・・」と農家の立場になって考えた上で、昨年度までのGAP実践支援手法を見直し、できるだけ取り組みやすい方法を検討した。モデル農家の経営状況に合わせ、農家と一緒に考えながら具体的に改善方法を提案することで、モデル農家の改善意欲を高めることができた。今回の支援手法を基に同青年クラブ内でモデル農家を増やし、事例を積み重ね、更なる組織活性化に努めたい。（地域特産振興班：主事 屋嘉比 仁美）

これまでは、GAP概論の講習と農場評価結果に基づき、高リスクな項目について改善を促す手法を用いてきたが、「自発的な改善意欲」の喚起には至っていなかった。

今回は「次世代の地域リーダー育成」を目標に、より現実的なものとして認識しやすい講習方法（内容・時期）に取り組むとともに、農場評価結果の伝え方として、「気づき」と「改善意欲の醸成」を目指してチェック項目ごとに「評価ポイント」や「改善ポイント」を作成し、具体的に伝えるよう取り組んだ。これらの作業には多くの時間を要したが、支援した農家から「取り組んでよかった。」との声が聞かれたことから、今後のGAP実践指導の手法として活用したい。（地域特産振興班：班長 山口 悟）

6. 現状・今後の展開等

今後は、同青年クラブへの継続的な講習を行うとともに、農場評価・改善に取り組むモデル農家を支援し、GAP実践に取り組む農家を育成する。また、意見交換や更なる意識向上ができるよう支援するとともに、これらの取組を他の青年クラブにも波及させ、GAP実践に取り組む「次世代の地域リーダー」育成に繋げたい。